

令和7年度 那加第一小学校研究構想

<学校の教育目標>

未来を拓く子

「たくましさ」と「やさしさ」があふれる学校

児童の実態

- 仲間と学び合う中で、既習の学習と結びつけようとするなど、課題解決のための見通しが持てるようになってきた。
- 自分の考えを、具体物や図、数直線、式などを指し示しながら根拠を明らかにして話そうとする意識が高まってきた。
- 本時学習したことをもとに評価問題に取り組むことができる。
- 基礎的・基本的な知識・技能の定着に個人差がある。
- 問題解決するために、筋道立てて考え、その過程を分かりやすく表現する力が十分とは言えない。
- 学んだことを生活や学習につなげる見方をする児童が少ない。

令和7年度研究テーマ

「できた・わかった・使える」と言える子の育成
～数学的に考える資質・能力の育成を目指して～

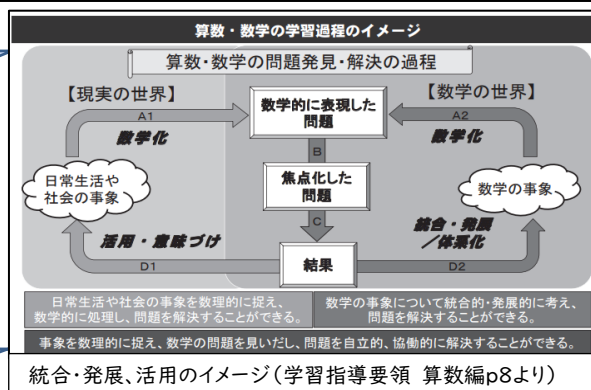
願う児童の姿

- ・基礎的・基本的な知識・技能が定着している。
- ・見通しをもち、筋道を立てて考え、説明することができる。
- ・言葉や図、式などをつないで、指し示しながら根拠を明らかにして話することができる。
- ・仲間の意見との共通点、相違点を見だし、考えを深めたり広げたりすることができる。
- ・単に問題を解決することに終わらず、学習したことを、既習事項と関連付けて考えたり、新たな疑問を見いだしたり実生活で学びを生かせないかと考えたりするなど、主体的に学習していく。
- ・算数の楽しさ、よさ、魅力に気付く。

研究仮説

数学的な見方・考え方を働かせて問題解決に取り組む、それを仲間と伝え合う活動を行い、学んだことを振り返るよう授業終末を工夫・改善すれば、数学的に考える資質・能力を育成することができる。

研究内容



数学的に考える資質・能力を育成する授業づくり

(1) 単元指導計画の工夫

- 学びに向かい続けるための指導の工夫
- ・「どのような方法で」「何をはっきりさせるのか」という見通しや働かせたい見方・考え方を明確にし、単元指導計画に位置付ける。

(2) 数学的に表現し、伝え合う活動の設定

- 根拠を明らかにして筋道を立てて説明する活動の具体化
- ・考えた過程を分かりやすく表現(具体物、図、数、式、表、グラフ相互の関連を図る)し、それを指し示して説明できるようにする。
- ・目的、方法を明確にした意図的な交流活動を仕組む。

(3) 授業終末の工夫改善

- 統合・発展・活用における学習活動の具体化
- ・一単元に一時間程度、「既習の内容と統合」、「未習の内容へつなぐ発展」、「日常生活への活用」のいずれかを意図的に位置づける。
- ふりかえりの充実